

第1回JDA日本語ディベート大会 開催要項

目的：日本ディベート協議会（JDA）創立10周年記念行事として、様々な層の方が参加・交流できるような大会の実現。また、従来主に英語で行われていたアカデミック・ディベートを母語（日本語）で行うことにより、参加者の方がより正確なアーギュメンテーションの理解、構築を行える大会を目指します。

主催：日本ディベート協議会（JDA）

後援：（株）バベル（予定）

開催日：1995年3月25日（土）

開催場所：神田外語大学（JR京葉線「海浜幕張」駅下車徒歩15分、または総武線「幕張」駅下車徒歩20分か、「幕張本郷」駅下車バス15分。詳しくは別紙を参照して下さい。）

参加資格：特になし。ただし、後述の通り、二部門制で各部門はかなり異なるルールを採用しているので、どちらの部門に参加するかは慎重にご検討の上決定して下さい。また、組織、団体の枠を超えたチーム構成も可とします（例：高校生と社会人、またはある大学の学生と別の大学の学生、等）

参加費：1チームにつき3000円

内容：以下の二部門を設け、それぞれ異なるルールを設定します。

①「トーナメントディベーターの部」

対象：英語、または日本語のアカデミック・ディベート大会への参加、またはそれに準ずる経験を持ち、アカデミック・ディベートに関する知識をある程度以上お持ちの方。

論題：1995年前期JDA推薦プロポジションを採用予定。尚、推薦プロポジションは2月中旬頃発表予定です。

フォーマット：以下のフォーマットで試合を行います。

肯定側第一立論	6分
反対尋問(否定第二論者→肯定第一論者)	3分
否定側第一立論	6分
反対尋問(肯定第一論者→否定第一論者)	3分
肯定側第二立論	6分
反対尋問(否定第一論者→肯定第二論者)	3分
否定側第二立論	6分
反対尋問(肯定第二論者→否定第二論者)	3分
否定側第一反駁	4分
肯定側第一反駁	4分
否定側第二反駁	4分
肯定側第二反駁	4分

準備時間：各チーム10分(自チームのスピーチ前に自由に使えます)

予選：2試合行います。そのうち1試合は肯定側、1

試合は否定側を担当していただきます。

決勝：予選の結果、勝ち星と得点が上位の2チームで決勝戦を行います。決勝戦の勝者を優勝とします。

チーム構成：2人以上、最大4名までチームとして登録可能です。ただし、一試合につき、試合に参加できる方は2名に制限させていただきます。また、一試合につき、各参加者は一つの立論、一つの反駁をそれぞれ受け持っています。その際、連続する2つ以上のスピーチを一人の方が担当することを禁止します。

表彰：決勝戦進出の二チーム及びベストディベーターを別に選出し、表彰します。

②「一般の部」

対象：どなたでも結構です。ディベートに関する経験は問いません。ただし、上級者の方は極力「トーナメントディベーターの部」にご参加下さい。

論題：「命題：日本の司法制度に陪審制を導入すべし」

※この論題は政策決定論題です。日本の司法制度に導入されるべき政策について論じて下さい。

フォーマット：以下のフォーマットに基づき試合を行います。

肯定側第一立論	6分
反対尋問(否定第二論者→肯定第一論者)	3分
否定側準備時間	2分
否定側第一立論	6分
反対尋問(肯定第一論者→否定第一論者)	3分
肯定側準備時間	3分
肯定側第二立論	6分
反対尋問(否定第一論者→肯定第二論者)	3分
否定側準備時間	3分
否定側第二立論	6分
反対尋問(肯定第二論者→否定第二論者)	3分
否定側準備時間	2分
否定側第一反駁	4分
肯定側準備時間	4分
肯定側第一反駁	4分
否定側準備時間	3分
否定側第二反駁	4分
肯定側準備時間	3分
肯定側第二反駁	4分

試合：二試合行います。そのうち1試合は肯定側、1試合は否定側を担当していただきます。

チーム構成：2人以上、最大4名までチームとして登録可能です。1試合につきスピーチを行う方は2名が望ましいですが、事前に大会主催者まで連絡下されれば、一試合につき3人以上の方がスピーチしても構いません。その際、一人の人が連続する二つ以上のスピーチを担当することを禁じます。また、試合中、登録された4人までの方が相談する事は自由です。

表彰：二試合行った結果、勝ち星の数と得点から、上位二チームを表彰します。

※なお、どちらの部門も、参加希望多数の場合は抽選により参加者を決定させていただきます。抽選にもれた場合、参加費は全額お返しいたします。ご了承下さい。

審査方法について：審査員は、主に現在アカデミック・ディベートの審査員としてご活躍されている方の中から、大会主催者が能力ありと認めた方を招待します。審査員の方には理性に基づき、極力主観を排除して、ディベーターの論じた議論を客観的に批評・比較して論理的に判断し、命題を肯定するか否定するか、すなわち肯定側に投票するか否定側に投票するかを決定していただきます。また、「トーナメントディベーターの部」の予選（および「一般の部」の試合）は各試合1名、「トーナメントディベーターの部」の決勝は5名の審査員の方に審査していただく予定です。

応募方法：

①大会参加費3000円／チームを以下の郵便口座にお振り込み下さい。

加入者名：日本ディベート協議会
口座番号：00160-5-154129

※その際、払込取り扱い表の通信欄に「ディベート大会参加費」と明記して下さい。また、郵便局で渡される受領書のコピーを申込用紙に同封して下さい。領収書とさせていただきます。

②添付した申込書に必要事項をご記入の上、以下の住所に郵送して下さい。



応募締め切り：1995年2月25日（当日消印有効）

ヘルパーのお願い：関東地区よりご出場の方は、係員としてヘルパーを1名ずつご同伴下さい。ディベートの経験は問いません。ヘルパーの方には、スピーチ時間計測、試合の司会進行等を行っていただく予定です。

初心者向けマニュアルのご案内：ディベートの経験のない方、または浅い方を対象にした解説書「ディベートははじめの一步」を販売いたします。内容は、初心者を対象としたディベートの概論、ルール解説となっています。1部500円です。御希望の方は希望冊数×500円を上記振込先へ振り込んだ後、申込用紙の所定の欄に、希望冊数をご記入の上、安藤まで郵送して下さい。その際郵便局で渡される受領書のコピーを同封して下さい。こちらは本大会に参加しない方でも申し込み可能です。

Exhibition Debate：大会当日、「トーナメントディベーターの部」決勝戦終了後、結果発表まで

の時間、Exhibition Debateを行います。現在ディベート界で審査員として活躍されている方に模範ディベートを見せていただく予定です。是非ご覧下さい。

論題：「一般の部」と同じもの（命題：日本の司法制度に陪審制を導入すべし）

（参考）

「一般の部」向けプロポジション（命題：日本の司法制度に陪審制を導入すべし）の背景

自由民権運動の高まる中成立した「陪審法」により、我が国において陪審裁判は1923年より約20年間行なわれていましたが、43年の「陪審法ノ停止ニ関スル法律」により現在までその施行が停止されたままになっています。しかし80年代後半になり政府が陪審裁判制度に関する調査をスタートさせ、その再導入の是非についての議論が活発化しつつあります。

この命題をディベートするにあたって、肯定、否定側共に欧米の陪審裁判制度の理念および実際の運用を参考にして、それぞれの立場を構築していくことができます。肯定側は陪審制度導入による国民の司法参加機会の増大、またそれによる民主主義の基盤強化などを中心に議論を展開できるでしょう。司法判断に市民の常識を反映させることで政治権力などに関して司法の中立性を保ち、また陪審員の義務を国民に課すことがもたらす公民教育効果など議論することが可能です。否定側は「素人」の基準を司法判断に持ち込むことがもたらすさまざまな弊害を挙げ、陪審制度が民主主義の持つ衆愚性を肥大化する危険を議論することができます。陪審員選出の公正性の問題、また「議論ができない」と言われている日本人の国民性などについても議論を展開することも可能です。

基本文献

丸田 隆「陪審裁判を考える」（中公新書、1990年）
巻末に参考文献リストあり
（文責 青沼）

ご意見、ご質問等は、下記までご連絡下さい。

安藤 温敏

※連絡にはe-mailが便利です。電話での連絡はつづらり場合があります。その際は郵便をご利用下さるか、留守番電話にご用件を入れて下されば、こちらから連絡いたします。

以上